

新規・継続等	新規	分野	荒廃山地の復旧等の治山		事業番号	4	事業名	山地治山 (治山施設機能強化)					
市町村名	高森町		ふりがな 箇所名	えどがきわ 江戸ヶ沢		事業年度 (完了年度は見込み)	H23 年度 ~ H24 年度						
事業概要	計画概要 (延長・幅員・面積・工種など)	谷止工1個、床固工5個、筋工500m					H22年度末事業進捗率	0 %					
	H23年度以降実施内容	同上					本工事費等ベース	0 %					
	H23年度実施内容	谷止工1個					用地補償費ベース	- %					
	年度	全体事業費		H21年度まで		H22年度		H23年度		H23年度以降残			
	事業費計(千円)	86,200		0		0		29,000		86,200			
財源内訳	国庫支出金	39,500		0		0		13,300		39,500			
	その他												
	県債	42,030		0		0		14,130		42,030			
	一般財源	4,670		0		0		1,570		4,670			
箇所評価	観点	評価項目・指標等			評価			部	政策評価課				
								ランク	評価	ランク	評価		
	必要性 (20)	保全対象人家	10戸以上			1~9戸		0戸		A	A	5	5
		保全対象公共施設	2箇所以上			1箇所		なし				5	5
		保全対象に弱者施設があるか	重要施設			一般施設		なし				2	2
		保全対象(保安林・林業用施設)	「広域基幹林道」又は利用区域500ha以上の林道又は保安林率50%以上			保安林率30%以上50未満又は流域対策上の林道又は保安林率50%以上		保安林率30%未満				7	7
		小計										19	19
	重要性 (15)	過去の災害履歴	過去5年に1回以上			災害履歴地		なし		B	B	3	3
		交通遮断による地域経済などへの影響	大			中		小				3	3
		防災計画上の位置づけ	あり			なし						5	5
		小計										11	11
	効率性 (20)	費用対効果(B/C)	B/C2.0以上			B/C1.0以上2.0未満		B/C1.0未満		A	A	10	10
		早期発現度	3年未満			3年以上5年未満		5年以上				7	7
		流域の総合調整	あり			なし						0	0
		小計										17	17
	緊急性 (25)	最寄の保全対象までの距離	50m未満			50m以上200m未満		200m以上		B	B	7	7
		地形、地質の状況	火山噴出物、花崗岩、第3紀層、破砕帯かつ地すべり地形			火山噴出物、花崗岩、第3紀層、破砕帯		その他				1	1
		平均渓床勾配(平均山腹勾配)	10°以上(30°以上)			5°~10°未満(20~30°未満)		5°未満(20°未満)				3	3
		下流の堰堤等の整備状況(他所管含む)	なし			あり(概ね満砂)		あり(ポケットあり)				3	3
		危険地区危険度	Aランク			Bランク		Cランク				4	4
小計								18	18				
計画 熟度 (20)	地域からの要望	地域住民活動強い			市町村要望有り		特に要望ない		B	B	7	7	
	事業情報の共有	関係者以外にも周知			関係者中心に周知		特に周知していない				3	3	
	住民参加の状況	住民が直接参加			住民市町村意見を反映		住民意見反映していない				3	3	
	小計										13	13	
費用対効果(B/C)	8.94			評価の合計			A	78	A	78			
事業周辺環境	事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	天竜川右岸に位置した河岸段丘の急傾斜内の溪流で以前より治山事業が実施されている。近年では平成7年9月の台風12号災で人家に被害を及ぼし、それに対応するように治山事業を実施してきた。平成7年以前に施工した谷止工(石積)は設置から半世紀以上を経ており、経年劣化による老朽化が進んでおり、施設のリフレッシュ対策が必要となっている。											
	地域からの要望経緯	溪流の上部には小学校、下流には保育園があり、通学、通園路の町道が溪流を横切っていることから、平成7年当時の災害を知る土地所有者(6名)より、平成19年4月2日に、現地において直接対応策を要望されている。その後高森町からは治山の事業要望が毎年、提出されている。											
	事業説明等の経緯	H22年8月に高森町が開催した林政協議会において、参集した地区長全員の前で事業計画があることの説明をしている。											
	環境・景観への配慮項目	計画箇所上流区間は、既設構造物(石)を中詰め材に再利用した構造を採用し、建設発生残土の抑制を図る。また、伐採木は渓岸斜面の筋工の材料に利用し、産業廃棄物発生量の抑制に努める。											
	他事業・プロジェクトとの関連	特になし。											
	特記事項	特になし。											
地域の合意形成	全員賛成		概ね賛成		過半数賛成		動向不明		その他				
部意見	礫類を多量に含む段丘崖の溪流に設置した既設谷止工は、施工後半世紀以上を経ており、経年劣化により決機能が低下しているため、段丘崖の透水性を変化させない透水構造を持つ構造物を再設置し機能強化することで、段丘崖全体の安定を図る必要がある。					政策評価課意見		必要性が認められる。					